

# 令和8年度 学校経営の大綱

村上市立朝日みどり小学校

## 1 本校の教育課題からみる育てたい子ども像

- (1) 村上市教育基本計画を基に、「郷に生きている」ことに自信と誇りをもち、自らの進路を切り拓いていくことのできる実力（知力・気力・体力・徳性）を備えた子どもを育てる。
- (2) 子ども一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させ、「学ぶ楽しさ」「できた喜び」を体感させながら意欲的に学ぼうとする資質や能力を身に付けさせる。
- (3) 「読む・書く」「学び合う」「タブレットの活用」「外国語」などの活動を充実させ、主体的に学ぶ子どもを育てていく。
- (4) 言葉遣いやあいさつ、返事、「早寝・早起き・朝ご飯」、メディア時間管理、家庭学習などの基本的な学習習慣や生活習慣の定着などについて、家庭・地域と協力しながら全職員で支援を行う。

## 2 教育目標

**あたたかい心 つくりだす力**

## 3 学校経営の基本方針

- (1) 子どもを丁寧に見取り、児童理解に努め、**一人一人に寄り添う** 教育を推進する。
- (2) 子どもを中心にして、家庭・地域、関係機関と**連携**した教育を推進する。
- (3) 教職員が知識と経験を出し合い、学校評価に基づく学校運営の充実に、**全校体制**で取り組む。
- (4) **来年度の統合を見据え、小川小学校と連携しながら可能な限り一緒にできる活動を行っていく。**

## 4 本年度の重点目標

### (1) つながり、認め合う

### (2) 学び合い、考えを深める

### (3) 健康な体をつくる

目指す学校像

**みんなの笑顔が輝く一人一人が主人公の学校**

## 5 本年度の努力事項

### (1) 学習指導

- ア 学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に基づいた授業改善を行うとともに、学習の質と量を確保する。
- イ どの子にも、「分かる喜び」「できる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせ、自ら主体的に学ぶ意欲に支えられた確かな学力の定着を図る。
- ウ 「読む」「書く」「聞く」「話す」「考える」活動を計画的に取り入れるとともに、言語活動、体験活動の充実を図る。
- エ 特別な支援を必要とする子どもや保護者の困り感に寄り添い、個に応じた支援に努める。
- オ 家庭学習の計画立案の時間を教育課程に位置付けるとともに、どの子どもも取り組める宿題を課し、肯定的に評価し、家庭学習の習慣化を図る。（築城タイムの効果的活用）
- カ 総合的な学習の時間や生活科では、地域の特色や人材を生かした学習を推進し、地域に誇りをもつ子どもに育てるとともに、人生に夢と希望をもつためのキャリア教育を充実させる。
- キ 体力の向上を目指し、体育の時間を充実させるとともに、メディアとの関わり方や生活習慣の改善を図る。
- ク 1人1台端末を有効活用した「学び合い」「家庭学習」の充実を図る。
- ケ 児童の豊かな情操を育むために、読書活動を推進する。
- コ **間違えることが大切であることを伝え、自分の考えをもつ、考えを伝える勇気を持たせる。**

### (2) 学級経営

- ア 子ども同士が互いに認め合い、高め合う学級風土を醸成する。
- イ 子どもの活躍する場や役割を与え、めあてに向かって挑戦する中で所属感・自己有用感を感じ

じさせていく。**(一人一人が主人公の精神を持たせる。)**

ウ 特別支援学級児童が交流学級の中で存在感や所属意識が感じられるように、関係職員が情報を共有し、連携を密にする。

### (3) 生活指導

ア 一人一人の児童理解をもとに、自ら生活を向上させようとする意欲や態度を育む。

イ 生活指導年間計画の具体的な実践や、徳育部の学校評価項目に基づく強調週間等で、豊かな心の育成を目指す。

ウ ファミリー班（異学年交流班）活動を通して個性を伸張し、リーダーシップや社会性を養う。

エ 「特別の教科道徳」の指導の充実を図り、教科書は元より「生きるシリーズ」等の効果的な資料等を活用するなどして、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成並びに人権教育、同和教育の充実に努める。

オ 全職員による情報の共有と共通理解を徹底し、問題行動やいじめ・不登校等の未然防止や早期発見、早期解決に努める。

カ 社会に貢献しようとするボランティア精神を養うために、勤労奉仕的な活動を取り入れる。

### (4) 職員研修

ア 「村上市の授業づくり」に基づいた、子どもたちが主体的に学び、達成感を味わう授業づくりを一層充実させ、教師一人一人の指導力を高める。

イ 学校評価、教員評価で個々の職務の進捗状況を確認し、課題を明確にして研鑽を積む。

ウ 基礎的・基本的な知識及び技能の定着とGIGAスクール構想による1人1台タブレットの活用力向上のために教材研究を深め、成果の共有を図りながら、学校全体の学力の向上を図る。

エ 勤務時間や業務精選に関して振り返る時間をとり、働き方改革を進める。

### (5) 環境整備

ア 校舎、校地、校庭全般にわたり、自然や自然素材が豊富な生活環境を有効活用できるように教職員が率先して清掃美化に取り組み、清潔で安全な施設整備の推進に努める。

イ 子どもの安全を第一に考えた施設・設備等の管理・点検を怠らない。

ウ 子どもたちの努力や成長の跡が見える環境作りに努める。

### (6) 家庭・地域との連携

ア 学校は地域住民の誇りであり心の拠り所であることを自覚し、家庭・地域との連携を密にしながらか役割を分担し、協力体制を整えていく。(教育懇談会やまちづくり協議会、学校運営協議会等との連携)

イ たより等による保護者・地域への情報発信に努め、その声を学校運営に生かすとともに、懇談会や学校説明会を開催して相互理解を図る。

ウ 学校評価の計画的な運用及び学校関係者評価等により、保護者・地域の支援を得られるよう学校の教育活動について十分な説明責任を果たす。

エ P T A活動を通じて家庭と学校的意思疎通を図り、家庭と学校の連携を強化する。

オ 「学校運営協議会 (CS)」や「教育懇談会」、「地域コーディネーター」、「学校支援ボランティア」等の地域の支援、関係機関との連携により、地域全体で子どもを育てる活動を推進する。

### (7) 保小中の連携

ア 「朝日地区小中連携協議会」の活動を中心に、朝日地区相互の緊密な情報交換をもとに、地域全体で子どもを育む風土を醸成する。

イ 小1プロブレム、中1ギャップ、学力向上など、共通の課題について関係機関と連携を密にして同一歩調で取り組む。

### (8) 他者とのかかわり

ア **統合を見据え、小川小学校の子どもたちと可能な限り活動を共有させ、統合ギャップを可能な限りなくしていけるよう職員一丸となって取り組む。**

イ **自分の知らない地区内外、県外、外国の子どもたちとかかわる場面を年間1回は設定し、他者とかかわれたという自信を育んでいく。**